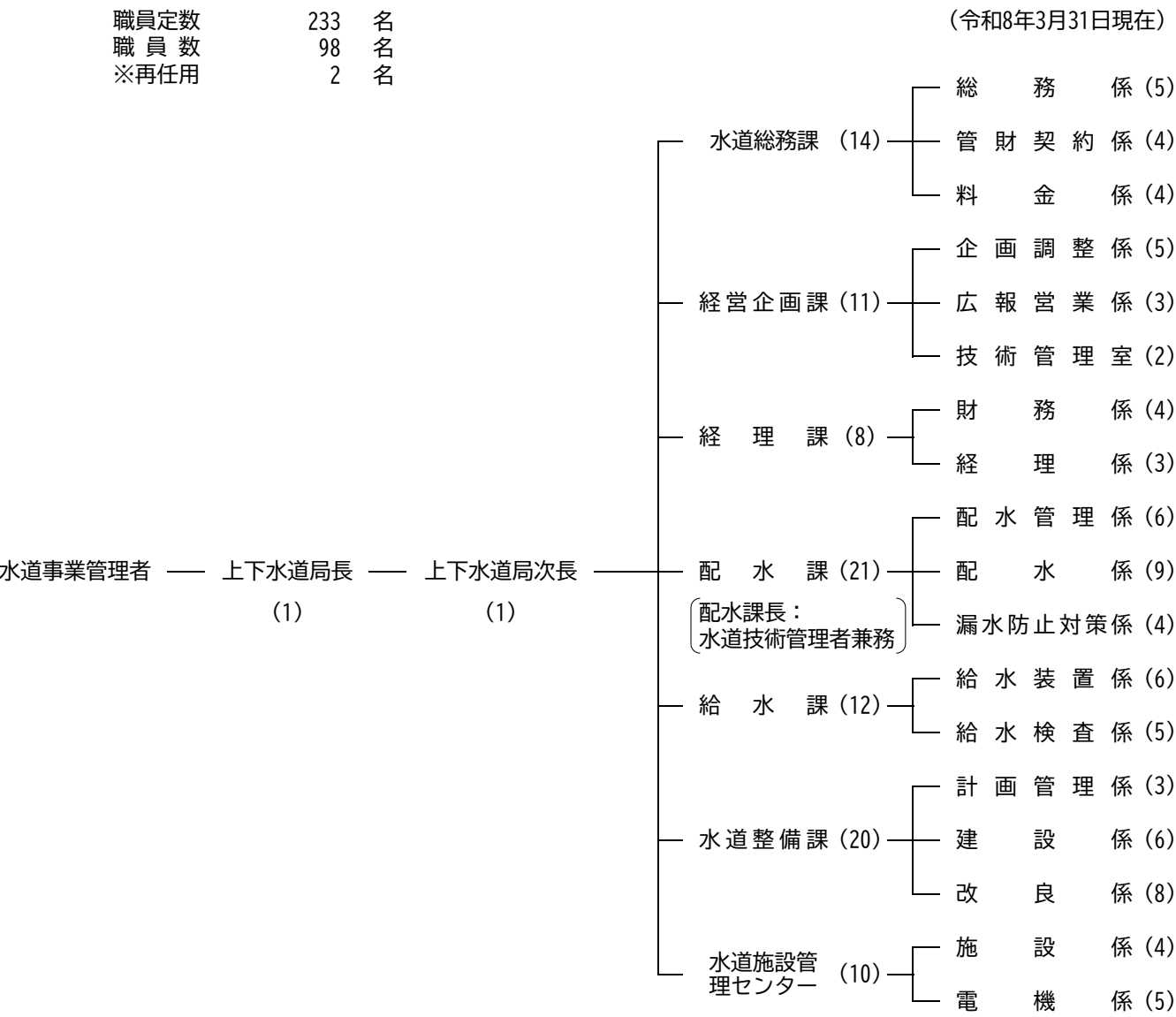


8 そ の 他

(1) 組織・機構図	108
(2) 職員配置表	109
(3) 本年度の主たる事項	109
(4) 歴代管理者・局長	110
(5) 広報活動	111
(6) 水源保全活動	113
(7) 「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標の算出結果 ...	114

8 その他

(1) 組織・機構図



(2) 職員配置表

(令和8年3月31日現在)

所 属	職 員 数	区 分																				男女別		
		局 長	次 長	参 事	課 長	主 幹	課 長 補 佐	室 長	主 任 主 査	主 任 技 査	係 長	主 任	主 任 (再任用)	検 査 員	主 査	主 査 (再任用)	技 査	技 査 (再任用)	副 主 査	副 技 査	主 事	技 師	男	女
水道総務課	16	1	1		1					3				8				1		1		15	1	
経営企画課	11				1		1	1		1		1	1	2				1		1	1	9	2	
経 理 課	8				1					2				3				1		1		6	2	
配 水 課	21				1		1			1	2					9			3	2	2	21		
給 水 課	12				1		1			1				1	1	4		1	2			11	1	
水道整備課	20				1		1		1	1	2					9		1	3		1	19	1	
水道施設管理センター	10				1		1			1				1		5			1			10		
計	98	1	1		7		5	1	1	2	12		1	1	15	1	27		5	9	5	4	91	7

※水道事業管理者を除く。課長には所長、課長補佐には所長補佐を含む。

(3) 本年度の主たる事項

番 号	年 月 日	件 名
1	7. 4. 1	主要職員異動 上下水道局長 丹治 典夫 が就任した。
2	8. 3. 31	主要職員異動 上下水道局長 丹治 典夫 が退任した。

(4) 歴代管理者・局長

<水道事業管理者>

氏 名			就 任	退 任	氏 名			就 任	退 任
1	岡 林 益 樹		昭27.10. 1	昭30.10.31	9	齋 藤 廣		〃 7. 6. 1	〃 13.12. 7
2	半 谷 真 武		〃 38.12.16	〃 47. 4. 7	10	半 澤 宏		〃 14. 4. 1	〃 15. 3.31
3	齋 藤 勝 二		〃 47. 4. 8	〃 50. 5.31	11	田 村 廣		〃 15. 4. 1	〃 19. 3.31
4	桂 英 一		〃 50. 6. 1	〃 54. 5.31	12	落 合 省		〃 19. 4. 1	〃 23. 4.30
5	小 野 章		〃 55. 4. 1	〃 57. 9.20	13	富 田 哲 夫		〃 23. 5. 1	〃 25.12. 7
6	遠 藤 昭 三		〃 58. 6. 1	〃 62. 5.31	14	富 田 光		〃 26. 4. 1	〃 30. 3.31
7	阿 部 邦 行		〃 62. 6. 1	平 3. 5.31	15	八 島 洋 一		〃 30. 4. 1	令 4. 3.31
8	須 田 和 男		平 3. 6. 1	〃 7. 5.31	16	清 野 一 浩		令 4. 4. 1	〃 8. 3.31

< 水 道 局 長 > ※令和7年4月1日以降は上下水道局長

氏 名			就 任	退 任	氏 名			就 任	退 任
1	岡 林 益 樹		昭30.11. 1	昭31. 4.30	17	松 永 芳 元		〃 12. 4. 1	〃 13. 3.31
2	酒 井 外 次		〃 31. 7. 1	〃 41. 3.31	18	鈴 木 一 義		〃 13. 4. 1	〃 16. 3.31
3	桂 英 一		〃 42.10. 1	〃 47. 4. 6	19	柴 田 哲 郎		〃 16. 4. 1	〃 18. 3.31
4	大久保 達雄		〃 47. 4. 7	〃 48. 6.30	20	村 田 正 弘		〃 18. 4. 1	〃 19. 3.31
5	小 野 章		〃 48. 7. 1	〃 50. 9.30	21	遠 藤 加 吉		〃 19. 4. 1	〃 21. 3.31
6	竹 下 明 道		〃 50.10. 1	〃 55. 3.31	22	高 木 良 明		〃 21. 4. 1	〃 24. 3.31
7	武 石 敏 明		〃 55. 4. 1	〃 59. 3.31	23	小 泉 五 男		〃 24. 4. 1	〃 26. 3.31
8	志 賀 重 政		〃 60. 4. 1	〃 62. 3.31	24	小 河 弘 実		〃 26. 4. 1	〃 28. 3.31
9	佐 藤 博 幸		〃 62. 4. 1	平元. 3.31	25	三 浦 辰 夫		〃 28. 4. 1	〃 30. 3.31
10	佐 藤 利 紀		平元. 4. 1	〃 2. 3.31	26	佐 藤 保 彦		〃 30. 4. 1	〃 31. 3.31
11	安 倍 重 男		〃 2. 4. 1	〃 4. 3.31	27	安 藤 善 春		〃 31. 4. 1	令 2. 3.31
12	楠 田 正 昭		〃 4. 4. 1	〃 5. 3.31	28	野 田 幸 一		令 2. 4. 1	〃 3. 3.31
13	丹 治 和 夫		〃 5. 4. 1	〃 7. 3.31	29	草 野 裕 市		〃 3. 4. 1	〃 5. 3.31
14	眞 木 敏 也		〃 7. 4. 1	〃 9. 3.31	30	神 藤 卓 也		〃 5. 4. 1	〃 6. 3.31
15	三 浦 胡 男		〃 9. 4. 1	〃 10. 3.31	31	紺 野 文 康		〃 6. 4. 1	〃 7. 3.31
16	譽 田 勝 芳		〃 10. 4. 1	〃 12. 3.31	32	丹 治 典 夫		〃 7. 4. 1	〃 8. 3.31

(5) 広報活動

①水道まつり 2025 の開催

生活に欠かす事のできない「水」に対する関心を高めることを目的に、「水」をテーマに子どもから大人まで楽しめる「水道まつり」を7月5日にアオウゼで開催した。

イベントでは、ポスターコンクールの表彰式、作品展及び「バスボムづくり」、「小水力発電キットづくり」などのワークショップを実施した。



ポスターコンクール表彰式



ポスターコンクール作品展



バスボムづくり



小水力発電キットづくり

②水道出前教室

水道を初めて学習する小学校4年生を対象とし、上下水道局職員が各学校に出向いて水道の実験学習等を行うことにより、水と自然の大切さや水道への関心を深めてもらうことを目的とし開催している。

令和7年度は8校で実施し、児童418人が受講した。



ろ過実験

③水道出前講座

上下水道局職員を講師として派遣し、市民との対話によるコミュニケーションの充実に努めることで、水の大切さや水道事業への理解と関心を深めてもらうことを目的として実施している。

令和7年度は市民団体などを対象に5回開催し、140人が受講した。



出前講座の様子

④ペットボトル「ふくしまの水」

水道水が安全・安心・良質でおいしい水であることを広く周知するとともに、東日本大震災以降の放射性物質に対する風評の払拭を図り、水道水の利用促進と水需要の拡大を目指すため、水道水をボトルリングしたペットボトル「ふくしまの水」を製作し、活用した。

- ア 製作本数 120,000 本
- イ 利用本数 135,624 本
 - ・販売本数 114,456 本
 - ・無償配布 21,168 本（福島ユナイテッド FC 協定、イベント等での利用）



⑤広報紙

水道に関する情報を積極的に提供し、水道事業への理解と関心を深めてもらうため、広報紙「SuRiKaMi」を年4回発行し、水道利用者へ全戸配布するとともに、様々な施設へ配置した。



福島市水道局だより
SuRiKaMi

(6) 水源保全活動

①水源保全活動補助金

摺上川ダム周辺等の水道水源の水質保全を図るため、ペットボトル「ふくしまの水」の売上の一部を財源として、水源保全活動を実施した1団体に補助金を交付した。



水源保全活動の様子



(7)「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標の算出結果

福島市上下水道局では、水道サービスの更なる向上を目指し、「水道事業ガイドライン」に基づいた業務指標（P I）を算出しています。

水道事業ガイドライン

水道事業の定量化によるサービスの向上のために、平成 17 年（2005 年）1 月に日本水道協会が国内規格として、規格書「水道事業ガイドライン（JWWAQ100）」を制定しました。

平成 28 年（2016 年）3 月に新水道ビジョンの策定や水質基準などの法令改正等を業務指標に反映させるため、新規格「（JWWAQ100）：2016」に改正しました。

	業務指標（P I）の数	
安全で良質な水	運 営 管 理	水質管理（9 項目）
		施設管理（5 項目）
		事故災害対策（2 項目）
	施 設 整 備	施設更新（1 項目）
安定した水の供給	運 営 管 理	施設管理（17 項目）
		事故災害対策（11 項目）
		環境対策（6 項目）
	施 設 整 備	施設管理（2 項目）
		施設更新（5 項目）
		事故災害対策（16 項目）
健全な事業経営	財 務	健全経営（27 項目）
	組織・人材	人材育成（7 項目）
		業務委託（2 項目）
	お客様との コミュニケーション	情報提供（3 項目）
		意見収集（6 項目）
計	（119 項目）	

※P I：業務指標（P e r f o r m a n c e I n d i c a t o r）

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（P I）の算出結果

業務指標記号の凡例		○ はこの指標を併せて調査評価する
↑ 高いほど良い	↑ 上の数字がある	目標値記号・……… 県の努力で改善できる指標
↓ 低いほど良い	↓ 下の数字がある	達成済み記号・……… はこの数値が「なし」と記載できない指標

目標	分類	区分	番号	業務指標	定義	業務評価	福島市			備考	指標の意味
							5年度	6年度	7年度		
安全で良質な水	運営管理	水質管理	A101	平均残留塩素濃度 (mg/L)	残留塩素濃度合計 / 残留塩素測定回数	↩	0.35	0.36	0.36		給水栓での残留塩素濃度の平均値を表す指標。 残留塩素水質管理目標値：0.2mg/L (水安全計画)
			A102	最大カビ臭物質濃度水質基準比率 (%)	(最大カビ臭物質濃度 / 水質基準値) × 100	↓	0.0	0.0	0.0		給水栓におけるカビ臭物質濃度の最大値の水質基準値に対する割合を表す指標。
			A103	総トリハロメタン濃度水質基準比率 (%)	(Σ 給水栓の総トリハロメタン濃度 / 給水栓数) / 水質基準値 × 100	↓	31.9	20.5	43.9		給水栓における総トリハロメタン濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の安全性を表す指標の一つ。
			A104	有機物 (TOC) 濃度水質基準比率 (%)	(Σ 給水栓の有機物 (TOC) 濃度 / 給水栓数) / 水質基準値 × 100	↓	16.2	17.5	15.7		給水栓における有機物 (TOC) 濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の安全性を示す指標の一つ。
			A105	重金属濃度水質基準比率 (%)	(Σ 給水栓の当該重金属濃度 / 給水栓数) / 水質基準値 × 100	↘	1.4	2.9	4.8		給水栓における重金属濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の安全性を表す指標の一つ。
			A106	無機物質濃度水質基準比率 (%)	(Σ 給水栓の当該無機物質濃度 / 給水栓数) / 水質基準値 × 100	↓	6.9	7.0	10.0		給水栓における無機物質濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の味、色など性状を表す指標の一つ。
			A107	有機化学物質濃度水質基準比率 (%)	(Σ 給水栓の当該有機化学物質濃度 / 給水栓数) / 水質基準値 × 100	↓	0.0	0.0	0.0		給水栓における有機化学物質濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、原水の汚染状況及び水道水の安全性を表す指標の一つ。
			A108	消毒副生成物濃度水質基準比率 (%)	(Σ 給水栓の当該消毒副生成物濃度 / 給水栓数) / 水質基準値 × 100	↘	56.7	36.7	80.0		給水栓における消毒副生成物濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、原水の汚染状況及び水道水の安全性を表す指標の一つ。
			A109	農業濃度水質管理目標比 (-)	$\max \Sigma (X_{ij} / GV_j)$	○	-	-	-	(自己水源分は) 農薬類の検査は実施せず	給水栓における各農業濃度と水質管理目標値との比の合計を示すもので、水源の汚染状況及び水道水の安全性を表す指標の一つ。
	施設管理	水質管理	A201	原水水質監視度 (項目)	原水水質監視項目数	○	59	59	58		水道事業者が原水水質の項目をどの程度検査しているかを示しており、水道事業者の水質管理水準を表す指標の一つ。
			A202	給水栓水質検査 (毎日) 箇所密度 (箇所/100km ²)	給水栓水質検査 (毎日) 採水箇所数 / (現在給水面積 / 100)	↑	8.8	8.4	8.4		給水栓における毎日水質検査に関して、給水面積100km ² 当たりの給水栓水質の監視箇所数を示したものであり、水道水の水質管理水準を表す指標の一つ。
			A203	配水池清掃実施率 (%)	(5年間に清掃した配水池有効容量 / 配水池有効容量) × 100	↑	54.7	56.8	60.9		配水池有効容量に対する5年間に清掃した配水池有効容量の割合を示すもので、安全で良質な水への取組み度合いを表す指標。
			A204	直結給水率 (%)	(直結給水件数 / 給水件数) × 100	↑	97.7	97.9	97.8		給水件数に対する直結給水件数の割合を示すもので、受水槽管理の不備に伴う衛生問題などに対する水道事業者としての取組み度合いを表す指標の一つ。
			A205	貯水槽水道指導率 (%)	(貯水槽水道指導件数 / 貯水槽水道数) × 100	↑	0.1	0.1	0.1		貯水槽水道数に対する指導を実施した件数の割合を示すもので、水道事業としての貯水槽水道への関与度を表す指標の一つ。
		事故災害対策	A301	水源の水質事故件数 (件)	年間水源水質事故件数	↓	0	0	0		1年間における水源の水質事故件数を示すもので、水源の突発的水質異常のリスクがどれだけあるかを表す指標の一つ。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（P I）の算出結果

業務指標記号の凡例		○は次の指標と併せて測定・評価する
↑ 高いほど良い	↑ 上の数字がある	目標値・計画値・………等の努力で改善できる指標
↓ 低いほど良い	↓ 下の数字がある	速くつづし、記号……は改善が難しい指標

目標	分類	区分	番号	業務指標	定義	業務評価	福島市			備考	指標の意味
							5年度	6年度	7年度		
安全で良質な水	運営管理	事故災害対策	A302	粉末活性炭処理比率（％）	$\left(\frac{\text{粉末活性炭年間処理水量}}{\text{年間浄水量}} \right) \times 100$	↓	0.0	0.0	0.0		年間浄水処理量に対する粉末活性炭年間処理水量の割合を示すもので、原水の汚染状況、水質事故などに対する対応を表す指標の一つ。
	施設整備	施設更新	A401	鉛製給水管率（％）	$\left(\frac{\text{鉛製給水管使用件数}}{\text{給水件数}} \right) \times 100$	↓	0.1	0.1	0.1		給水件数に対する鉛製給水管使用件数の割合を示すものであり、鉛製給水管の解消に向けた取組みの進捗具合を表す指標の一つ。 私有財産である給水装置に関するものであるため、水道事業者の努力だけでは改善が難しい。
安定した水の供給	運営管理	施設管理	B101	自己保有水源率（％）	$\left(\frac{\text{自己保有水源水量}}{\text{全水源水量}} \right) \times 100$	●	1.5	1.5	1.5		水道事業者が保有する全ての水源量に対する、その水道事業者が単独で管理し、水道事業者の意思で自由に取水できる水源量の割合を示すもので、水源運用の自由度を表す指標の一つ。
			B102	取水量1 m ³ 当たり水源保全投資額（円/m ³ ）	$\frac{\text{水源保全に投資した費用}}{\text{年間取水量}}$	↑	0.04	0.06	0.059		取水量1 m ³ 当たりに対する水質保全に対する投資費用を示すもので、水道事業者の水質保全への取組み状況を表す指標の一つ。
			B103	地下水率（％）	$\left(\frac{\text{地下水揚水量}}{\text{年間取水量}} \right) \times 100$	↻	0.0	0.0	0.0		水源利用水量に対する地下水揚水量の割合を示すもので、水道事業者の水源特性を表す指標の一つ。
			B104	施設利用率（％）	$\left(\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{施設能力}} \right) \times 100$	↑	72.5	71.0	69.9		施設能力に対する一日平均配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す指標の一つ。
			B105	最大稼働率（％）	$\left(\frac{\text{一日最大配水量}}{\text{施設能力}} \right) \times 100$	↑	78.0	76.4	76.5		施設能力に対する一日最大配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す指標の一つ。
			B106	負荷率（％）	$\left(\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日最大配水量}} \right) \times 100$	↑	92.9	92.9	91.4		一日最大配水量に対する一日平均配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す指標の一つ。
			B107	配水管延長密度（km/km ² ）	$\frac{\text{配水管延長}}{\text{現在給水面積}}$	↑	5.8	5.8	5.8		給水面積当たりの配水管延長を示すもので、お客さまからの給水申し込みに対する物理的利便性の度合いを表す。
			B108	管路点検率（％）	$\left(\frac{\text{点検した管路延長}}{\text{管路延長}} \right) \times 100$	↑	57.5	61.6	60.4		管路延長に対する1年間で点検した管路延長の割合を示すもので、管路の健全性確保に対する執行度合いを表す指標の一つ。
			B109	バルブ点検率（％）	$\left(\frac{\text{点検したバルブ数}}{\text{バルブ設置数}} \right) \times 100$	↑	1.1	1.0	0.7		バルブ設置数に対する1年間で点検したバルブ数の割合を示すもので、管路の健全性確保に対する執行度合いを表す指標の一つ。
			B110	漏水率（％）	$\left(\frac{\text{年間漏水量}}{\text{年間配水量}} \right) \times 100$	↓	7.2	6.5	6.2		配水量に対する漏水量の割合を示しており、事業効率を表す指標の一つ。
			B111	有効率（％）	$\left(\frac{\text{年間有効水量}}{\text{年間配水量}} \right) \times 100$	↑	92.7	93.3	93.6		年間配水量に対する年間有効水量の割合を示すもので、水道事業の経営効率性を表す指標の一つ。
			B112	有収率（％）	$\left(\frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間配水量}} \right) \times 100$	↑	88.9	89.7	90.0		年間配水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量が、どの程度収益につながっているかを表す指標の一つ。
			B113	貯水池貯留能力（日）	$\frac{\text{配水池有効容量}}{\text{一日平均配水量}}$	↑	1.13	1.15	1.17		一日平均配水量に対する配水池有効容量の割合を示すもので、給水に対する安定性を表す指標の一つ。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（P I）の算出結果

業務指標記号の凡例		○ はこの指標を併せて測定・評価する
↑ 高いほど良い	↑ 上の数字がある	目標値記号・…… 掲の努力で改善できる指標
↓ 低いほど良い	↓ 下の数字がある	速りつし記号・…… はこの 要望がないと改善できない指標

目標	分類	区分	番号	業務指標	定義	業務評価	福 島 市			備 考	指標の意味
							5年度	6年度	7年度		
安定した水の供給	運営管理	施設管理	B114	給水人口一人当たり配水量（L/日・人）	$\frac{（一日平均配水量 \times 1000）}{現在給水人口}$	↓	304	302	300		給水人口一人当たりの配水量を示すもので、家庭用以外の水利用の多少を表す指標の一つ。
			B115	給水制限日数（日）	年間給水制限日数	↓	0	0	0		1年間に給水制限を実施した日数を示すもので、給水サービスの安定性を表す指標の一つ。
			B116	給水普及率（％）	$\frac{（現在給水人口 / 給水区域内人口） \times 100}{}$	↑	99.0	99.1	99.1		給水区域内に居住する人口に対する給水人口の割合を示すもので、水道事業のサービス享受の概況及び地域性を表す指標の一つ。
			B117	設備点検実施率（％）	$\frac{（点検機器数 / 機械・電気・計装機器の合計数） \times 100}{}$	↑	86.4	86.4	86.3		機械・電気・計装機器の合計数に対する点検機器数の割合を示すもので、設備の健全性確保に対する点検割合を表す指標の一つ。
	事故災害対策		B201	浄水場事故割合（件/10年・箇所）	10年間の浄水場停止事故件数 / 浄水場数	↓	0.00	0.00	0.00		直近10年間に浄水場が事故で停止した件数を一浄水場当たりの割合として示すものであり、施設の信頼性を表す指標の一つ。
			B202	事故時断水人口率（％）	$\frac{（事故時断水人口 / 現在給水人口） \times 100}{}$	↓	38.0	37.9	37.5		浄水場などの事故時において給水できない人口の割合を示しており、水道事業体のシステムの融通性、余裕度によるサービスの安定性を表す指標の一つ。
			B203	給水人口一人当たり貯留飲料水量（L/人）	$\frac{〔（配水池有効容量 \times 1/2 + 緊急貯水槽容量） \times 1000 / 現在給水人口〕}{}$	↑	174	176	178		災害時に確保されている給水人口一人当たりの飲料水量を示す指標であり、水道事業体の災害対応度を表す指標の一つ。
			B204	管路の事故割合（件/100km）	管路の事故件数 / （管路延長 / 100）	↓	0.9	1.3	1.2		1年間における導・送・配水管路の事故件数を延長100km当たりの件数に換算したものであり、管路の健全性を表す指標の一つ。
			B205	基幹管路の事故割合（件/100km）	基幹管路の事故件数 / （基幹管路延長 / 100）	↓	0.0	0.8	0.0		1年間における基幹管路の事故件数を延長100km当たりの件数に換算したものであり、基幹管路の健全性を表す指標の一つ。
			B206	鉄製管路の事故割合（件/100km）	鉄製管路の事故件数 / （鉄製管路延長 / 100）	↓	0.8	1.3	0.7		1年間における鉄製導・送・配水管路の事故件数を延長100km当たりの件数に換算したものであり、鉄製管路の健全性を表す指標の一つ。
			B207	非鉄製管路の事故割合（件/100km）	非鉄製管路の事故件数 / （非鉄製管路延長 / 100）	↓	1.3	1.5	2.8		1年間における非鉄製導・送・配水管路の事故件数を延長100km当たりの件数に換算したものであり、非鉄製管路の健全性を表す指標の一つ。
			B208	給水管の事故割合（件/1000件）	給水管の事故件数 / （給水管件数 / 1000）	↓	1.5	2.0	1.4		給水管件数1000件当たりの給水管の事故件数を示しており、配水管分岐から水道メーターまでの給水管の健全性を表す指標の一つ。
			B209	給水人口一人当たり平均断水・濁水時間（時間）	$\frac{\Sigma（断水・濁水時間 \times 断水・濁水区域給水人口）}{現在給水人口}$	↓	0.20	0.40	0.37		現在給水人口に対する断水・濁水時間を示すものであり、給水の安定度を表す指標の一つ。
			B210	災害対策訓練実施回数（回/年）	年間の災害対策訓練実施回数	↑	2	4	4		1年間に災害対策訓練を実施した回数を示すもので、自然災害に対する危機対応性を表す指標の一つ。
			B211	消火栓設置密度（基/km）	消火栓数 / 配水管延長	↑	2.3	2.3	2.3		配水管延長に対する消火栓の設置密度を示すもので、危機対応能力の度合いを表す指標の一つ。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（P I）の算出結果

業務指標記号の凡例		○は次の指標と併せて算出される
↑ 高いほど良い	↑ 上の数字がある	目標値記号・………の努力で改善できる指標
↓ 低いほど良い	↓ 下の数字がある	速い・………記号・………は………の………と改善できない指標

目標	分類	区分	番号	業務指標	定義	業務評価	福島市			備考	指標の意味
							5年度	6年度	7年度		
安定した水の供給	運営管理	環境対策	B301	配水量1m ³ 当たり電力消費量(kWh/m ³)	電力使用量の合計 / 年間配水量	↓	0.03	0.03	0.031		配水量1m ³ 当たりの電力使用量を示すもので、省エネルギー対策への取組み度合いを表す指標の一つ。
			B302	配水量1m ³ 当たり消費エネルギー(MJ/m ³)	エネルギー消費量 / 年間配水量	↓	0.31	0.30	0.29	エネルギー消費量 電力 2005 3.6MJ/kWh 電力 2016 9.97MJ/kWh	配水量当たりの消費エネルギー量の割合を示すもので、省エネルギー対策への取組み度合いを表す指標の一つ。
			B303	配水量1m ³ 当たり二酸化炭素(CO ₂)排出量(g・CO ₂ /m ³)	(二酸化炭素(CO ₂)排出量 / 年間配水量) × 10 ⁻⁶	↓	17	17	16		年間配水量に対する総二酸化炭素(CO ₂)排出量であり、環境保全への取組み度合いを表す指標の一つ。
			B304	再生可能エネルギー利用率(%)	(再生可能エネルギー設備の電力使用量 / 全施設の電力使用量) × 100	↑	0.0	0.0	0.00		全施設の電力使用量に対する再生可能エネルギーの利用の割合を示すもので、環境負荷低減に対する取組み度合いを表す指標の一つ。
			B305	浄水発生土の有効利用率(%)	(有効利用土量 / 浄水発生土量) × 100	↑	-	-	-		浄水発生土量に対する有効利用土量の割合を示すもので、環境保全への取組み度合いを表す指標の一つ。
			B306	建設副産物のリサイクル率(%)	(リサイクルされた建設副産物量 / 建設副産物発生量) × 100	↑	54.2	141.8	58.9		水道事業における工事などで発生する建設副産物のうち、リサイクルされた建設副産物量の割合を示すもので、環境保全への取組み度合いを表す指標の一つ。
	施設整備	施設管理	B401	ダクトイル鋳鉄管・鋼管率(%)	[(ダクトイル鋳鉄管延長 + 鋼管延長) / 管路延長] × 100	↑	75.4	75.0	75.7		全管路延長に対するダクトイル鋳鉄管・鋼管の割合を示すもので、管路の母材強度に視点を当てた指標の一つ。
			B402	管路の新設率(%)	(新設管路延長 / 管路延長) × 100	○	0.00	0.01	0.01		管路延長に対する1年間に新設した管路延長の割合を示すもので、管路整備度合いを表す指標の一つ。
		施設更新	B501	法定耐用年数超過浄水施設率(%)	(法定耐用年数を超えている浄水施設能力 / 全浄水施設能力) × 100	↓	0.0	0.0	0.0		全浄水施設能力に対する法定耐用年数を超えた浄水施設の浄水能力の割合を示すもので、施設の老朽化度及び更新の取組み状況を表す指標の一つ。
			B502	法定耐用年数超過設備率(%)	(法定耐用年数を超えている機械・電気・計装設備などの合計数 / 機械・電気・計装設備などの合計数) × 100	↓	45.4	49.9	50.3		水道施設に設置されている機械・電気・計装設備の機器合計数に対する法定耐用年数を超えている機器数の割合を示すもので、機器の老朽化度、更新の取組み状況を表す指標の一つ。
			B503	法定耐用年数超過管路率(%)	(法定耐用年数を超えている管路延長 / 管路延長) × 100	↓	22.5	25.5	28.2		管路の延長に対する法定耐用年数を超えている管路の割合を示すもので、管路の老朽化度、更新の取組み状況を表す指標の一つ。
			B504	管路の更新率(%)	(更新された管路延長 / 管路延長) × 100	↑	0.19	0.34	0.24		管路の延長に対する更新された管路延長の割合を示すもので、信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表す指標の一つ。
			B505	管路の更生率(%)	(更生された管路延長 / 管路延長) × 100	○	0.000	0.000	0.030		管路の延長に対する更生を行った管路の割合を示すもので、信頼性確保のための管路維持の執行度合いを表す指標の一つ。
		事故災害対策	B601	系統間の原水融通率(%)	(原水融通能力 / 全浄水施設能力) × 100	↑	0.0	0.0	0.0		全浄水施設能力に対する他系統からの融通可能な原水水量の割合を示すもので、水運用の安定性、柔軟性、及び危機対応性を表す指標の一つ。
			B602	浄水施設の耐震化率(%)	(耐震対策の施された浄水施設能力 / 全浄水施設能力) × 100	↑	39.3	39.3	39.3		全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている浄水施設能力の割合を示すもので、地震災害に対する浄水処理機能の信頼性・安全性を表す指標の一つ。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（P I）の算出結果

業務指標記号の凡例		○は次の指標に準じて算出される
↑ 高いほど良い	↑ 上側の数字がある	目標値記号・………の努力で改善できる指標
↓ 低いほど良い	↓ 下側の数字がある	達成済み記号・………の目標がないと改善できない指標

目標	分類	区分	番号	業務指標	定義	業務評価	福島市			備考	指標の意味
							5年度	6年度	7年度		
安定した水の供給	施設整備	事故災害対策	B602-2	浄水施設の主要構造物耐震化率（％）	〔（沈でん・ろ過を有する施設の耐震化浄水施設能力＋ろ過のみ施設の耐震化浄水施設能力）／全浄水施設能力〕×100	↑	39.3	39.3	39.3		浄水施設のうち主要構造物である、沈でん池及びろ過池に対する耐震対策が施されている割合を示すもので、B602（浄水施設の耐震化率）の進捗を表す指標。
			B603	ポンプ所の耐震化率（％）	（耐震対策の施されたポンプ所能力／耐震化対象ポンプ所能力）×100	↑	56.1	56.1	89.9		耐震化対象ポンプ所能力に対する耐震対策が施されたポンプ所能力の割合を示すもので、地震災害に対するポンプ施設の信頼性・安全性を表す指標の一つ。
			B604	配水池の耐震化率（％）	（耐震対策の施された配水池有効容量／配水池等有効容量）×100	↑	45.2	45.2	44.5		全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表す指標の一つ。
			B605	管路の耐震管率（％）	（耐震管延長／管路延長）×100	↑	*7.2	*7.5	*7.6	耐震管にポリエチレン管を含めたため*で表示した。	導・送・配水管（配水管を含む）全ての管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表す指標の一つ。
			B606	基幹管路の耐震管率（％）	（基幹管路のうち耐震管延長／基幹管路延長）×100	↑	21.9	24.2	24.5		基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すものであり、地震災害に対する基幹管路の安全性、信頼性を表す指標の一つ。
			B606-2	基幹管路の耐震適合率（％）	（基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長／基幹管路延長）×100	↑	95.7	99.2	99.7		基幹管路の延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、B606（基幹管路の耐震管率）を補足する指標。
			B607	重要給水施設配水管路の耐震管率（％）	（重要給水施設配水管路のうち耐震管延長／重要給水施設配水管路延長）×100	↑	100.0	100.0	25.8		重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震管延長の割合を示すもので、大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の安全性、信頼性を表す指標の一つ。
			B607-2	重要給水施設配水管路の耐震適合率（％）	（重要給水施設配水管路のうち耐震適合性のある管路延長／重要給水施設配水管路延長）×100	↑	100.0	100.0	70.4		重要給水施設への配水管の延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、B607（重要給水施設配水管路の耐震管率）を補足する指標。
			B608	停電時配水量確保率（％）	（全施設停電時に確保できる配水能力／一日平均配水量）×100	↑	61.3	62.6	64.0		一日平均配水量に対する全施設が停電した場合に確保できる配水能力の割合を示すものであり、災害時・広域停電時における危機対応性を表す指標の一つ。
			B609	薬品備蓄日数（日）	（平均凝集剤貯蔵量／凝集剤一日平均使用量）又は（平均塩素剤貯蔵量／塩素剤一日平均使用量）	↷	25.0	22.7	22.7		浄水場で使う薬品の平均貯蔵量に対する一日平均使用量の割合を示すもので、災害に対する危機対応力を表す指標の一つ。
			B610	燃料備蓄日数（日）	平均燃料貯蔵量／一日燃料使用量	↑	-	-	-	平成19年度以降は自家発電施設廃止のため該当なし	停電時においても自家発電設備で浄水場の稼働を継続できる日数を示すもので、災害時の対応性を表す業務指標の一つ。
			B611	応急給水施設密度（箇所/100k㎡）	応急給水施設数／（現在給水面積／100）	↷	5.9	5.9	5.9		100k㎡当たりの応急給水施設数を示すもので、震災時などにおける飲料水の確保のしやすさを表す指標の一つ。
健全な事業経営	財務	健全経営	B612	給水車保有度（台/1000人）	給水車数／（現在給水人口／1000）	↑	0.015	0.015	0.019		給水人口1000人当たりの給水車保有台数を示すものであり、事故・災害などの緊急時における応急給水活動の対応性を表す指標の一つ。
			B613	車載用の給水タンク保有度（m³/1000人）	車載用給水タンクの容量／（現在給水人口／1000）	↑	0.13	0.13	0.15		給水人口1000人当たりの車載用給水タンク容量を示すものであり、主に大地震などが発生した場合における応急給水活動の対応性を表す指標の一つ。
健全な事業経営	財務	健全経営	C101	営業収支比率（％）	〔（営業収益－受託工事収益）／（営業費用－受託工事費）〕×100	↑	106.1	100.3	96.2		営業収益の営業費用に対する割合を示すもので、水道事業の収益性を表す指標の一つ。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（P I）の算出結果

業務指標記号の凡例		○ はこの指標と併せて測定評価する
↑ 高いほど良い	↑ 上の数字がある	目標値記号・…… 届く努力で改善できる指標
↓ 低いほど良い	↓ 下の数字がある	達成済み記号・…… は現在の数値が低いと改善できない指標

目標	分類	区分	番号	業務指標	定義	業務評価	福島市			備考	指標の意味
							5年度	6年度	7年度		
健全な事業経営	財務	健全経営	C102	経常収支比率 (%)	$\frac{[(営業収益 + 営業外収益) - (営業費用 + 営業外費用)]}{(営業収益 + 営業外収益)} \times 100$	↑	111.8	105.9	101.8		経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すもので、水道事業の収益性を表す指標の一つ。
			C103	総収支比率 (%)	$\frac{(総収益 - 総費用)}{100}$	↑	111.8	105.9	101.8		総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すもので、水道事業の収益性を表す指標の一つ。
			C104	累積欠損金比率 (%)	$\frac{[累積欠損金 / (営業収益 - 受託工事収益)]}{100}$	↓	0.0	0.0	0.0		受託工事収益を除く営業収益に対する累積欠損金の割合を示すもので、水道事業経営の健全性を表す指標の一つ。
			C105	繰入金比率 (収益的収入分) (%)	$\frac{(損益勘定繰入金 / 収益的収入)}{100}$	○	1.1	1.0	1.1		収益的収入に対する損益勘定繰入金の依存度を示しており、事業の経営状況を表す指標の一つ。
			C106	繰入金比率 (資本的収入分) (%)	$\frac{(資本勘定繰入金 / 資本的収入計)}{100}$	○	8.4	4.3	3.1		資本的収入に対する資本勘定繰入金の依存度を示しており、事業の経営状況を表す指標の一つ。
			C107	職員一人当たり給水収益 (千円/人)	給水収益 / 損益勘定所屬職員数	↑	73,693	72,279	73,606		損益勘定職員一人当たりの給水収益を示すもので、水道事業における生産性について給水収益を基準として把握するための指標の一つ。
			C108	給水収益に対する職員給与費の割合 (%)	$\frac{(職員給与費 / 給水収益)}{100}$	↓	10.5	10.7	12.8		給水収益に対する職員給与費の割合を示すもので、水道事業の収益性を表す指標の一つ。
			C109	給水収益に対する企業債利息の割合 (%)	$\frac{(企業債利息 / 給水収益)}{100}$	↓	2.4	2.1	2.1		給水収益に対する企業債利息の割合を示すもので、水道事業の効率性及び財務安全性を表す指標の一つ。
			C110	給水収益に対する減価償却費の割合 (%)	$\frac{(減価償却費 / 給水収益)}{100}$	↓	28.3	28.1	28.2		給水収益に対する減価償却費の割合を示すもので、水道事業の収益性を表す指標の一つ。
			C111	給水収益に対する建設改良のための企業債償還元金の割合 (%)	$\frac{(建設改良のための企業債償還元金 / 給水収益)}{100}$	↓	17.6	16.4	15.1		給水収益に対する建設改良のための企業債償還元金の割合を示すもので、建設改良のための企業債償還元金が経営に及ぼす影響を表す指標の一つ。
			C112	給水収益に対する企業債残高の割合 (%)	$\frac{(企業債残高 / 給水収益)}{100}$	↓	158.4	156.3	150.0		給水収益に対する企業債残高の割合を示すもので、企業債残高が規模及び経営に及ぼす影響を表す指標の一つ。
			C113	料金回収率 (%)	$\frac{(供給単価 / 給水原価)}{100}$	↑	105.9	100.6	96.0		給水原価に対する供給単価の割合を示すもので、水道事業の経営状況の健全性を表す指標の一つ。
			C114	供給単価 (円/㎡)	給水収益 / 年間総有収水量	↓	240.1	241.6	243.2		有収水量 1㎡当たりの給水収益の割合を示すもので、水道事業でどれだけの収益を得ているかを表す指標の一つ。
			C115	給水原価 (円/㎡)	$\frac{[経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 長期前受金戻入)]}{年間有収水量}$	↓	226.6	240.1	253.4		有収水量 1㎡当たりの経常費用 (受託工事費等を除く) の割合を示すもので、水道事業でどれだけの費用がかかっているかを表す指標の一つ。
			C116	1 か月 10㎡ 当たり家庭用料金 (円)	1 か月 10㎡ 当たり家庭用料金 (料金表による)	↓	2,299	2,299	2,299		1 か月に 10㎡ 使用した場合における水道料金を示し、契約者の経済的利便性を表す指標の一つ。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（P I）の算出結果

業務指標記号の凡例		○ はこの指標に準じて算出される
↑ 高いほど良い	↑ 上の数字がある	自然記号・……… 局の努力で改善できる指標
↓ 低いほど良い	↓ 下の数字がある	……… 記号……… はこの範囲内と改善できない指標

目標	分類	区分	番号	業務指標	定義	業務評価	福島市			備考	指標の意味
							5年度	6年度	7年度		
健全な事業経営	財務	健全経営	C117	1 か月20㎡当たり家庭用料金（円）	1 か月20㎡当たり家庭用料金（料金表による）	⇓	3,718	3,718	3,718		1か月に20㎡使用した場合における水道料金を示し、契約者の経済的利便性を表す指標の一つ。
			C118	流動比率（％）	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	⇑	262.3	271.5	250.1		流動負債に対する流動資産の割合を示すものであり、事業の財務安全性を表す指標の一つ。
			C119	自己資本構成比率（％）	$\frac{〔\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額など} + \text{繰延収益}〕}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$	⇑	73.1	74.2	74.2		総資本（負債及び資本）に対する自己資本の割合を示しており、財務の健全性を表す指標の一つ。
			C120	固定比率（％）	$\frac{〔\text{固定資産} / (\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額など} + \text{繰延収益})〕 \times 100}{100}$	⇓	117.9	119.1	118.5		自己資本に対する固定資産の割合を示すものであり、財務の安全性を表す指標の一つ。
			C121	企業債償還元金対減価償却費比率（％）	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金} / \text{当年度減価償却費} - \text{長前受金戻入}}{\times 100}$	⇓	75.0	71.4	64.5		当年度減価償却費に対する企業債償還元金の割合を示すもので、投下資本の回収と再投資との間のバランスを見る指標。
			C122	固定資産回転率（回）	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{〔\text{（期首固定資産} + \text{期末固定資産）} / 2〕}$	⇑	0.16	0.15	0.15		固定資産（年度平均）に対する営業収益の割合を示すものであり、1年間に固定資産額の何倍の営業収益があったかを示す指標。
			C123	固定資産使用効率（㎡/万円）	年間配水量 / 有形固定資産	⇑	7.1	6.8	6.7		有形固定資産に対する年間総配水量の割合を示すもので、施設の使用効率を表す指標の一つ。
			C124	職員一人当たり有収水量（㎡/人）	年間総有収水量 / 損益勘定所属職員数	⇑	307,000	299,000	303,000		1年間に有収水量を示すもので、水道サービスの効率性を表す指標の一つ。
			C125	料金請求誤り割合（件/1000件）	$\frac{\text{誤料金請求件数}}{\text{料金請求件数}} / 1000$	⇓	0.02	0.01	0.01		料金請求件数に対する誤請求の件数の割合を示すもので、料金関連業務の適正度を表す指標の一つ。
			C126	料金収納率（％）	$\frac{\text{料金納入額}}{\text{調定額}} \times 100$	⇑	99.8	99.8	99.9		1年間の水道料金総調定額に対して、決算確定時点において納入されている収入額の割合を示すもので、水道事業の経営状況の健全性を表す指標の一つ。
			C127	給水停止割合（件/1000件）	$\frac{\text{給水停止件数}}{\text{給水件数}} / 1000$	⇓	18.4	22.1	19.8		給水件数に対する給水停止件数の割合を示すもので、水道料金の未納状況の度合いを見る指標の一つ。
	組織・人材	人材育成	C201	水道技術に関する資格取得度（件/人）	職員が取得している水道技術に関する資格数 / 全職員数	⇑	1.82	1.76	1.78		職員が取得している水道技術に関する資格数の全職員に対する割合を示すもの。
			C202	外部研修時間（時間/人）	$\frac{\text{（職員が外部研修を受けた時間} \times \text{受講人数）}}{\text{全職員数}}$	⇑	10.3	9.8	9.4		職員一人当たりの外部研修の受講時間を表すもので、技術継承及び技術向上への取組状況を表す指標の一つ。
			C203	内部研修時間（時間/人）	$\frac{\text{（職員が内部研修を受けた時間} \times \text{受講人数）}}{\text{全職員数}}$	⇑	10.2	10.3	13.1		職員一人当たりの内部研修の受講時間を表すもので、技術継承及び技術向上への取組状況を表す指標の一つ。
			C204	技術職員率（％）	$\frac{\text{（技術職員数）}}{\text{全職員数}} \times 100$	○	63.6	64.6	62.6		全職員数に対する技術職員の割合を示すもので、技術面での維持管理体制を表す指標の一つ。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（P I）の算出結果

業務指標記号の凡例		○ はこの指標を併せて測定可能な指標
↑ 高いほど良い	↑ 上の数字がある	目標値・……… 目標の努力で達成できる指標
↓ 低いほど良い	↓ 下の数字がある	……… 目標の努力で達成できない指標

目標	分類	区分	番号	業務指標	定義	業務評価	福島市			備考	指標の意味
							5年度	6年度	7年度		
健全な事業経営	組織・人材	人材育成	C205	水道業務平均経験年数（年/人）	職員の水道業務経験年数 / 全職員数	○	13.7	13.9	13.6		全職員の水道業務平均経験年数を表すもので、人的資源としての専門技術の蓄積度合いを表す指標の一つ。
			C206	国際協力派遣者数（人・日）	Σ（国際協力派遣者数 × 滞在日数）	↑	0	0	0		国際協力に派遣された人数とその滞在日数の積で、国際協力への関与の度合いを表す指標の一つ。
			C207	国際協力受入者数（人・日）	Σ（国際協力受入者数 × 滞在日数）	↑	0	0	0		受け入れた海外の水道関係者の人数と滞在日数の積で、国際協力への関与の度合いを表す指標の一つ。
		業務委託	C301	検針委託率（％）	（委託した水道メーター数 / 水道メーター設置数）× 100	↑	100.0	100.0	100.0		水道メーター設置数に対する検針委託している水道メーター数の割合を示すもので、業務委託の度合いを表す指標の一つ。
			C302	浄水場第三者委託率（％）	（第三者委託した浄水場の浄水施設能力 / 全浄水施設能力）× 100	○	0.0	0.0	0.0		全浄水場の浄水施設能力のうち、第三者に委託している浄水場の浄水施設能力の割合を示すもので、第三者委託の導入状況を表す指標の一つ。
			C401	広報誌による情報の提供度（部/件）	広報誌などの配布部数 / 給水件数	↑	4.8	4.8	4.0		給水件数に対する広報誌などの発行部数の占める割合を示すもので、お客さまへの事業内容の公開度合いを表す指標の一つ。
	お客さまとのコミュニケーション	情報提供	C402	インターネットによる情報の提供度（回）	ウェブページへの掲載回数	↑	384	390	366		インターネット（ウェブページ）による水道事業の情報発信回数を表すもので、お客さまへの事業内容の公開度合いを表す指標の一つ。
			C403	水道施設見学者割合（人/1000人）	見学者数 / （現在給水人口 / 1000）	↑	0.5	0.1	0.27		給水人口に対する水道施設見学者の割合を示すもので、お客さまとの双方向コミュニケーションの推進度合いを表す指標の一つ。
		意見収集	C501	モニタ割合（人/1000人）	モニタ人数 / （現在給水人口 / 1000）	↑	0.000	0.000	0.00		現在給水人口に占めるモニタ人数の割合を表すもので、お客さまとの双方向コミュニケーションの推進度合いを表す指標の一つ。
			C502	アンケート情報収集割合（人/1000人）	アンケート回答人数 / （現在給水人口 / 1000）	↑	0.18	4.21	-		給水人口に対する1年間に実施したアンケート調査に回答した人数の割合を示し、お客さまのニーズの収集実行度を表す指標の一つ。
			C503	直接飲用率（％）	（直接飲用回答数 / アンケート回答数）× 100	↑	53.2	85.9	-		水道水を飲用としているお客さまの割合を示すものであり、水道水の飲み水として評価を表す指標の一つ。
			C504	水道サービスに対する苦情対応割合（件/1000件）	水道サービス苦情対応件数 / （給水件数 / 1000）	↓	0.82	1.53	0.68		給水件数に対する水道サービスに関する苦情対応件数の割合を示すもので、水道サービス向上に対する取り組み状況を表す指標の一つ。
			C505	水質に対する苦情対応割合（件/1000件）	水質苦情対応件数 / （給水件数 / 1000）	↓	0.27	0.14	0.05		給水件数に対する、水道水の水質に関する苦情対応件数の割合を示すもので、水道水質の向上に対する取り組み状況を表す指標の一つ。
			C506	水道料金に対する苦情対応割合（件/1000件）	水道料金苦情対応件数 / （給水件数 / 1000）	↓	0.05	0.07	0.06		給水件数に対する水道料金に関する苦情対応件数の割合を示すもので、お客さまの水道料金への満足度を表す指標の一つ。